緑鯱城会便り

ふれあい

第70号
平成29年12月

発行：鯱城会 緑鯱城会
名古屋市高年大学 鯱城学園
編集：緑鯱城会 広報委員会

甲 冑

創作 鳴海 近藤 武さん
黒石 坂本 康文さん

目　次

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			3
運営委員会だより	総務長	戸田　幸彦	4
「趣味の作品展」特集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			8
第22回趣味の作品展に思うこと	実行委員長長	原田　良昭	8
趣味の作品展に思うこと	28期	加藤　専次	9
趣味の作品展の思い出	16期	山森　正蔵	10
作品展の思い	22期	重富　範三	11
枯れ木も山の賑わい	24期	石井　釟三郎	12
絞り同好会	25期	橋本　幸子	13
作品作りの苦しみ	28期	山森　雅子	14
絵手紙担当になって	29期	安田　節子	15
ボランティア関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			16
新海池公園清掃	28期	鈴木　君代	16
「かきつばたの里」ボランティアで思う事	29期	遠藤　ハツエ	17
緑市民病院のボランティア	29期	岸野　美枝子	18
緑市民病院から感謝状	「みどりの広場」の転載		18
科学館ボランティアをして	29期	水谷　敏夫	19
素描：アメリカのボランティア活動	30期	平田　秀	20
特別寄稿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			22
あの世とこの世の狭間で	19期	馬越　求	22
アフリカ紀行	23期	鳥山　務	23
トヨタ博物館の見学	23期	辻　正子	24
名古屋朝顔祭り開花コンテスト優秀賞を受賞	24期	加藤　正春	25
覚王山界隈散策	29期	馬場　良裕	26
楽しいウオーキング	28期	阪野　敏子	27
楽しめた彦根城等バスツアー	29期	加藤　比敏	28
ウォーキング同好会活動報告＆今後の予定	同好会代表	加藤　勝江	29
表紙「甲冑」についてのコメント・・・・・・	鳴海甲冑同好会	近藤　武	30
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			30

運営委員会だより

総務長　戸田　幸彦（28 期　生活 B）

第１回運営委員会　（4 月 15 日）

会長挨拶(花井)

代議員会報告（花井）

- 32 期生地域ミーティング（5/24　水曜日　中消防署講堂）実施
- 31 期生地域ミーティング（6/20　火曜日　緑生涯学習センター）実施
- 鯱城会 16 区会フェスティバル中村ＳＣにて開催、　緑鯱城会担当委員　総務・水谷

幹事会報告（加藤）

- 鯱城会広報委員長に緑鯱城会加藤専次幹事が選出される

協議事項

- 役員会・運営委員会の会場が 7 月より片平ふれあいセンターへ変更される

ボランティア委員会

- 緑区クリーンキャンペーン・なごや 2017 参加依頼　（扇川遊歩道クリーンキャンペーン 6 月 3 日実施）

行事委員会

- 5/30（火）　名古屋地方裁判所見学と傍聴について

第２回運営委員会　（5 月 20 日）

会長挨拶　（花井）

代議員会報告（花井）

- 鯱城会 16 区フェスティバル開催について説明　（緑鯱城会担当水谷）
  開催日　2017 年 12 月 13 日（水）10 時～16 時　中村 SC 予定

幹事会報告　（加藤）

- 代議員会、幹事会がほぼ同内容の為 6 月の運営委員会より加藤幹事がまとめて報告

協議事項

- ふれあい配達員について　（退会者等で配達員欠員補充について）

総務報告

- 平成 29 年度　緑鯱城会予定表配布
- 役員会・運営委員会会場は 7 月 15 日より徳重地区会館より片平ふれあいセンターに変更
- 平成 29 年度第 1 回 32 期生の地域ミーティングについて
  5 月 24 日（水）　13:30～15：00 中消防署 4Ｆにて開催（対象者 63 名）

会計報告　・29 年度の期別通信費配布について

ボランティア委員会

- 6/3 日扇川クリーンキャンペーンについての説明
- 新海池公園清掃（毎月第 2 日曜日）　・要池公園清掃（毎月第 4 日曜日）

行事委員会

・5/30（火）　名古屋地方裁判所見学と傍聴　63 名参加予定

広報委員会　　・ふれあい　第 69 号発行について

第 3 回運営委員会　（6 月 17 日）

会長挨拶（花井）

代議員会・幹事会報告（加藤）

・6/26 日（月）公開講演会（神田京子）の参加動員のお願い

協議事項

・第 22 回の趣味作品展（10/28～29　緑区役所講堂）について
（作品展推進計画、第 1 回実行委員会役割分担、実施要項、出展責任者の確認等）

・31 期地域ミーティング（6 月 20 日　13:30～　緑生涯学習センター）について

・第 16 回グランド・ゴルフ交歓会（10/31 日庄内緑地公園第 1 候補）について

・16 区フェスティバル（12 月 13 日）の競技種目等の紹介、プログラム案について

総務報告

・29 年度役員、運営委員名簿について　　・30 期生役員、運営委員紹介

・ふれあい配布場所変更案内について　（徳重地区会館より緑社協に変更）

ボランティア委員会

・各種ボランティア参加依頼、特に今回は雑巾ボランティアへの協力をお願いされる

行事委員会

・5/30（火）　名古屋地方裁判所見学と傍聴　70 名参加で盛況であった

・7/15（火）　日帰りバスツアー　中部国際空港・INX 等見学について

広報委員会

・ふれあい 69 号発行、鯱城ニュース　6/30　封入、配達者に渡す（緑社協にて）

第 4 回運営委員　（7 月 15 日）

会長挨拶（花井）

代議員会・幹事会報告（加藤）

・公開講演会（神田京子）参加人数 955 名と大変な盛況で皆様への協力御礼

・次回講演会（11/27）東山動物園園長と事前打ち合わせを計画

・地域ミーティングは授業の一環で有るが平均参加率 52%、低い区は 28%～30%と低調である

・ホームページ担当者会議開催（7/10）、HP 作成の講習会を開催し各区成果向上を図る

協議事項

・第 2 回作品展実行委員会　（作品搬出時間及び会場空け渡し変更について）

・第 3 回鯱城 16 区フェスティバル会議

会場：　第 1 候補東スポーツセンター・第 2 候補
中村スポーツセンターに変更

競技種目 4 種目に決定：
竜の玉送り、玉入れ、〇×クイズ、パン食いゲーム

目標参加人数　：　700 名（会員総数 3,500 名の 20%）

総務報告
・広報誌「ふれあい」配達人について交代要員等の情報依頼
ボランティア委員会
・雑巾ボランティア協力依頼について
・「心の絆創膏キャンペーン」配布ボランティア募集
・10/7　鶴舞公園清掃クリーンキャンペーン参加者募集について
行事委員会
・7/18　日帰りバスツアー（中部国際空港等）　　・9/13（彦根城周辺散策）について
・11 月の飯田方面、リンゴ狩り等について
第 5 回運営委員会　（8 月 19 日）
会長挨拶（花井）　作品展・各種行事への協力依頼
協議事項
・第 16 回グランド・ゴルフ交歓会（10/31）の参加募集と開催案内について
・16 区フェスティバル 12 月 13 日、東スポーツセンター第 1 競技場にて実施決定する
・第 3 回作品展実行委員会（第 22 回作品展）
ポスター掲示等依頼、案内状送付、出展応募状況について
ボランティア委員会　・各種ボラ参加依頼、特に雑巾ボランティア協力依頼
行事委員会　・9/13 彦根城と龍潭寺見学
・11/16 南信州おとなの遠足（リンゴ狩り等）について
広報委員会
・12 月 1 日に広報誌「ふれあい」70 号発行予定　（作品展等の原稿依頼）
第 6 回運営委員会　（9 月 16 日）
会長挨拶（花井）
代議員会・幹事会報告（加藤）
・鯱城学園は今後 5 年間社協の継続が認可される　　・(3/8) OB 文化祭の参加資格条件検討中
・(11/27) 東山動物園園長講演会のチラシ準備、後援先取り付け中
協議事項
・第 3 回作品展実行委員会
作品展開催準備、役割分担、展示準備計画について
・第 16 回グランド・ゴルフ交歓会の参加者の確認と案内書送付について
・第 4 回鯱城 16 区フェスティバル報告
(12/13)東スポーツセンターにて 9 時～16 時で実施、競技は 4 種目とアトラクション（盆踊とフォークダンス）を実施、　パンフ、案内書は緑鯱城会員に 9/21 送付
総務報告
・区民祭協力依頼、役割分担（プラバン）について
・役員、運営委員変更について
会計報告
・H29 年度緑鯱城会予算執行状況について

ボランティア委員会

・(11/4) 鯱城会第６回堀川清掃大作戦について

・雑巾ボランティアにて 9/24 戸笠不老クラブ（会長　伊藤一夫様）より 150 寄贈されました。

行事委員会

・南信州おとなの遠足の参加依頼について

第７回運営委員会　（10 月 21 日）

会長挨拶（花井）

代議員会・幹事会報告（加藤）

・ＯＢ文化祭（来年 3/8）の参加資格、条件検討

・こころの絆創膏キャンペーン 128 名参加に感謝

・鯱城ニュース 33 号 11/24 日配布に向け作業中

・広報サミット（10/16）開催、意見交換等

・平成 29 年度規約改正結果について次回代議員会にて承認後即日発行（11/20）

協議事項

・第 4 回作品展実行委員会

　作業手順、出展応募状況、作品展目録の確認等について

・(12/13) 16 区フェスティバル参加人数、当初目標 70 名に対し 10/15 日現在 65 名の応募

総務報告

・32 期生第 2 回地域ミーティングについて（11/29、鯱城学園にて）

ボランティア委員会

・10/10 緑市民病院より永年のボランティア活動により「感謝状」を頂きました

・名古屋ウィメンズマラソン（3/11）参加募集

・雑巾の仕分けと配布について（12/18、社協）

行事委員会

・11/16　南信州、飯田方面大人の遠足　41 名の参加予定

広報委員会

・12/7　広報誌「ふれあい」70 号封入、配布

期別委員会

・今後の期別委員、世話人の在り方について検討

・ボランティア活動に役員、運営委員の積極的参加について

以上

大村忠さん提供の写真

「趣味の作品展」特集

第22回趣味の作品展の実行委員長を経験して

実行委員長　原田　良昭

台風22号が接近した日の午後奇しくも緑鯱城会第22回趣味の作品展の終了宣言をして無事作品展を終わることが出来ました。
前任の花井会長から書類を引き継いだのが5月、まだまだ先のことと考えながら進んできましたが今考えるとあっという間の5ヶ月間でした。
6月に出展責任者、実行委員会のメンバーのお願い、推進計画、出展依頼書と矢継ぎ早に作成してきましたが、役所から講堂の返却時間が17時でなく16時30分と連絡が入り既に発送した書類が有り、その一点の変更のために関連書類全てを見直す事でてんてこ舞いの始末でした。
8月から9月は作品展の各種団体と鯱城学園在校生への案内状の作成、チラシ、ポスターの配布作業がありました。
10月に入り会場準備のための書類作成、作品応募状況の確認、出品目録の作成と期日が迫る中で各関係の皆様に大変ご無理をお願いしました。
関係者の皆様、出展者の方々の御協力を得て開催することが出来たわけですが、「どうしよう、どうしよう」と思うような失敗も良かったこともたくさんありました。
個人的に良かったことはワードの差し込み印刷での案内状、宛名ラベル、作品ラベルの作成等で自分のスキルを上げることが出来たこと緑鯱城2年間の役員期間で大きな達成感を味わうことが出来た事です。
また、緑鯱城会のチームワークの強さを体験できたことは皆様一人一人の顔と共に良い思い出をつくる事が出来ました。
反省点として個々にはたくさんありますが大きくは企画の段階から多くの方々を巻き込む事が出来なかったこと、そのことによって6月頃書類作成、出展依頼、出展責任者と実行委員の関わり等皆様の活動の輪が大きくならなかったのではと考えます。
作品展は緑鯱城会の大きなイベントですので、活動の輪を拡げ多くの人が「やったー」と言う達成感を味わえる活動になって行ったらと考えます。
そのために諸先輩の皆様のご意見もお聞きしながら30期の皆様にもアドバイスしていけたらと考えています。
とにかく至らない実行委員長でしたが皆様のおかげで無事終わらせて頂きました。
この書面をお借りして厚く御礼申し上げます。

趣味の作品展に思うこと

加藤　専次　（28期　生活B）

今年で作品展、工芸部門の責任者として２年目を向かえました。

最初の年は役員（幹事）を任され仕事の内容も理解出来ず、その上、作品展の責任者を受けた事を後悔いたしました。又期限迄に作品が集まるのか心配でした。心配が的中し期限を過ぎても３点程しか集まりません。原因を調べたところ大半が鯱城会会員でなく一般の方の為応募用紙が届いていないことが解りました。早急に用紙を送り作品の依頼をし、なんとか間に合わせた記憶がありました。その後も一般の方から何とか出品のお願いがあり役員の方々には大変なご迷惑をおかけ致したことがありました。その経験を生かして２年目は事前に出品者に早めに連絡をし、応募用紙を配布し且つ電話をし、出展の有無をつかみました。

その努力の結果今年は早めに作品を集めることが出来ました。ただ皆様年々高齢となり辞退される方が多く出展作品が減少して来ています。寂しさを感じます。今後いかにしたら出展作品を増やすのか、又幅広い工芸作品を展示することが課題と思われます。

私も来年は下手な水彩画、版画を作品展に出展したいと思っています。いろいろなことがありましたが、楽しい時間を過ごすことが出来、皆様に感謝申しあげます。

「趣味の作品展」の思い出

山森　正蔵　（16 期　園芸）

緑鯱城会最大のイベントである「趣味の作品展」は 22 回目の開催となり、緑鯱城会員とともに大いに喜ばしい事であります。

私が「趣味の作品展」に係わりましたのは、学園を卒業し、緑鯱城会入会と同時にパソコンが少しばかりいじれる事で広報委員となり、運営委員会の一員として、第 8 回の作品展から、3 年間実行委員の方の指示に従い、緑区役所 2 階ホールの背後にある備品倉庫からパネル等を運び出しホールに並べる会場設営さらに閉会後の撤収から始まりました。お疲れ様でした。

何時から「写真」部門に出品したかは、記憶にない。自宅でのバラ、サギソウは別として、大部分は旅行先で撮影されたものが多いので、アルバムから調べて、第 9 回目の作品展からだと思われ、それから現在に至っています。

残された出展作品を見ると、色々な事が思い出されて懐かしい。写真はよいもので大きく伸ばしたほうが迫力もあり感動もスゴイ。出品された作品がご覧になる皆さんに、どんな印象を与えたかは、残念ながら図り知ることは出来ませんが、感動なり癒しを与える事が出来れば、有り難い事です。

次回に向かって、緑鯱城会員の皆さん一層頑張りましょう。

展示のパソコン作品の一部

作品展への思い

重富　範三　（22 期　園芸）

名古屋市高年大学　鯱城学園を卒業して早や９年目になります。園芸学科に在籍して２年間で野菜作りや山菊盆栽と名古屋朝顔の栽培などを教えていただきました。
それまで別段何の趣味もなかった私でしたが、作品展に出品しているうちに、周りの方々の上手なおだてに乗り、ちょっとやってみようかという意欲も出てきました。
今年こそ、今年こそという気持ちが強くなり、今日に至っております。

現在は名古屋朝顔の会を手伝いながら、ささやかに福助作りなど楽しんでおります。
今回も愚作の発表の場を与えていただき本当に嬉しく思います。花作りは自然相手であり、また私も年齢的にも根気もなくなり何かと思い通りに行きません。いろいろと問題点を抱えておりますが、一生懸命生きているものの美しさや健気さなど、愛でる気持ちを忘れないでいたいと思います。

これからも静かに長く頑張って行くつもりです。

作品展、展示会場

中央列の様子

枯れ木も山の賑わい

石井　釟三郎　　（24 期　地域）

第 17 回作品展で、「短歌・俳句・川柳部門」の出展責任者を仰せつかりましたが、短歌の出品者が少ないのが悩みの種でした。

数合わせで体裁を整えるには、自分も出品するしかないと思い、自分が好きなお酒と幼い孫の２点を題材に想いを廻らし、悪戦苦闘して、拙いながらも五・七・五・七・七と短歌らしきものに纏めることができました。

他の出品者や来館者に失礼とは思いながらも、「枯れ木も山の賑わい」と心に決めて出品することにしました。

以後『枯れ木』を毎回出品しております。

昨年、これまで出展責任者をしていただいた 26 期の渡辺清美さんが退会され、また自分にお鉢が回ってきました。

これまでご出品いただいた皆様にお手紙を差し上げ、出品のお願いをしました処、ご高齢を理由にご辞退される方が何人かおられた一方で、新たに 29 期生・30 期生の出品者も増え、今年の第 22 回作品展では、短歌部門の出品数は、『枯れ木』を含めると 9 点に増えました。

山は大分賑わいを取り戻しましたので、今回の２点の出品を最後に『枯れ木』は消えることにいたします。

これまでご出品いただいた皆様のご厚情に感謝申し上げながら。

絞り同好会

橋本　幸子　（25 期　福祉）

今年１月発足し、毎月第２金曜日午後１時～3 時迄、瀬戸信用金庫鳴海支店３階・コミュニティーホールにて活動しています。

講師は、27 期健康学科　蟹江喜代子先生です。

絞りは初めての人や針を持つのも初めての男性等、一緒に楽しく急がず、マイペースで進めましょうと約束しました。

初日は絞り専用の指抜き作りでした。次に縫い絞りと巻き上げ絞りを教わり、ランチョンマットを作成しました。

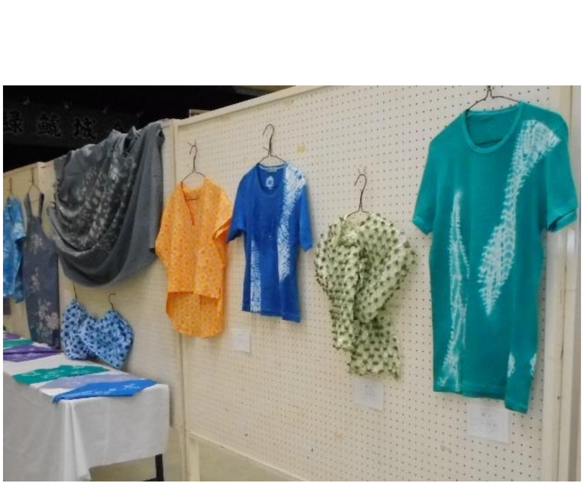
軍隊絞りをＴシャツ等に絞り、製品が出来ることに喜びを感じて進んでいきました。

いよいよ大物に挑戦です。ブラウス １ 着分を日の出絞りに四苦八苦です。日数がかかりましたが９月の染迄に皆絞りました。

希望の色を先生に作っていただき､温度を保ちながら約 20 分程休まず掻き混ぜます。誰かが「私ってこんな色をお願いしたのかしら？」不安な一言、すると先生が「実際の色は泡の色ですよ」すると「ああ、この色なら良い色」安心して又、掻き混ぜ 20 分が過ぎ、鍋から出すと色が変化し思った色に変わってくることが不思議ねと話しながら皆、笑顔になりました。染めは染めで又、楽しく奥の深さに再度感心しました。

作品展には力作がズラリ！！　10 カ月の成果のお披露目です。飾り付けると一層立派な品に見えます。

今後も日々精進して作品を楽しみながら作っていきたいと思います。



作品作りの苦しみ

山森　雅子（28 期　健康）

緑鯱城会の作品展に出品する事 3 回目。今年はどんな作品にしようかと、8 月頃から考え始めました。何時もの様に 45 文字位にしようか？それとも違うパターンにしようかと悩んだ末、自宅の床の間に掛けられるようにと、掛け軸を作る事にしました。

掛け軸にする為には、どんな内容がいいか悩みます。有名人の言葉や、教訓。あるいは詩か、熟語か等々、色んな事が頭を交錯する。出した結論は 4～5 文字の熟語。熟語の本をめくりながら、見栄えがする字で、しかも内容がいいとなると、なかなか見つかりません。これと思った熟語が見つかると、半紙に書いてみる。

こんな作業を何回か繰り返して、やっと 4 文字熟語で、「龍翔雲起」に決めました。意味は（龍が翔び雲が生じる、めでたいしるし）といい、皆さんに見ていただくには良いかな？と思ったからです。

半切に 4 文字。一字がかなり大きくなりますが、かつて書いた事がないため、イメージが出来ません。やるしかありませんが、ここまでくれば、作品の 8 割は出来たも同然です。しかし、10 月 27 日の搬入迄に、掛け軸にしていただかなくてはなりませんから、10 月の頭には完成させる必要があります。ここまで、約 1 か月半が経ちました。あせる気持ちを抑えながら、書く字のイメージをします。

龍がとぶ・・・勢いがあって・・・いったいどんな風に書こうか？何度も、何度も半紙に書いてみる。しかし、なかなか上手く龍が翔ばない。

何回も空想し、空で描き、イメージを膨らませて、やっと、幅 35 センチ長さ 135 ㎝の紙の両側に膝をつき、筆にたっぷり墨をつけて、思いっきり力強く、龍よ飛べ―と心の中で叫びながら、一気に書く。あ～・・・上手く書けなかった。よ～し、今度こそ・・・う～ん、イマイチ字がおとなしいなあ～。

3 枚目、・・・一字少し変だけど、まあまあかな？やっぱり下手だなあ～。何時になったら上手になるのかな？実力の無さにガックリ。こうして、何日も時間をかけて 7～8 枚書いた中の一枚を先生に選んで頂き、仕上げました。

書く事は、気力，体力が必要です。その上、モチベーションを上げてからでないと、書けません。時には、クラシック音楽を聴きながら書いたりします。

毎年、中日書道展に出品する為に書く時は、いつもこんな風にして、苦しみながら作品作りをしております。

絵手紙担当になって

安田　節子（29 期　健康 B）

先日 21 号の台風がお蔭様で緑区の方は雨、風は少し強い時もありましたが、被害もなく安心していた所、又 22 号がそれも趣味の作品展の真っ最中に来ようとしています。どうぞ今回も逸れます様にお祈りするのみ。さて絵手紙はヘタで良いとみなさんは言いますが、私みたいに本当にヘタな上に絵心がない私にはヘタが良いが余計にプレッシャーになりますが、作品が出来上がれば満足です。今回も絵手紙担当になり私なりに頑張って作品を作りましたが・・・・どうかな？
ただヘタな私でも長い間やれば何とかなる一心でやってます。緑区も絵手紙の先生方が沢山いらっしゃいますので、友達作りから鯱城学園の精神で一度興味のある方は挑戦してみてはいかがでしょうか。

作品展の展示状況の一部

ボランティア関係

新海池公園清掃

鈴木　君代　（28期　文化A）

池の南方、小高い見晴らしの良い丘の上に“おはようございます”と緑のベストを着た会員の方々が、元気に集合です。

当番の者は準備です。ゴミ袋、手袋、トング、出席簿、お茶等々、緑鯱城会の倉庫から出して、ベンチの所に移動します。

さあ、準備運動です。ラジカセの音楽と共に、ラジオ体操です。朝の新鮮な空気、澄みきった青空の下で、のびのび思いきり体をのばします。気持ちよく最高の気分です。“今日は第1だけか？　第2もやろうよ！”と声がかかります。夏には、“暑いからもういいよ、やめよ！”と声がかかります。皆様の笑い声と笑顔がほころびます！

清掃開始です。公園内あちこちに広がって、ゴミ拾い、“今日はあまりないネ”と話ししていると袋いっぱい拾ってみえた方に“スゴイ！どこにあったの？”と、うらやましそう（？）に声をかけ、苦笑しながら話がはずみます。

ゴミは分別し集積場所へ。後日、市土木事務所に連絡。その後はこの日のお楽しみ！近くの喫茶でお茶して、おしゃべりです。

お疲れ様でした。楽しかったですネ。戸外で体を動かすボランティア、ちょっぴり良い事をした気分で心がほっこりです。

第2日曜日　9:30　是非お出かけ下さい。

新海池公園は、こんもりとした森もあり、“新海池プレーパーク”と子供達の探検・遊び場にもなっていて、行事が清掃の日と同日となると、子供達のワイワイ大きな声が聞こえ元気をもらいます。

池で釣りをする人も、睡蓮の花もきれいに咲き、また、小鳥達も多種来ます。

春には、カルガモ親子の可愛いいほほえましい光景も見られ癒されます。

早朝　6:30　ラジオ体操の音楽が野球場の隣の広場に流れ、散歩していた人々が集まり体操が始まります。

近くに素晴らしい公園がある事に感謝し、四季を感じ楽しみながら活動に参加していこうと思います。

「かきつばたの里」ボランティアで思う事

遠藤　ハツエ　　（29 期　生活 A）

月に一回「かきつばたの里」（特別養護老人ホーム）に、喫茶ボランティアとして行ってます。

午後 2 時になると在宅の方、デイサービス利用の方、家族の人達が喫茶コーナーにみえます。お水を差し上げ、メニューを見せ、注文をお聞きします。メニューには、コーヒー、ココア、ジュース、アイス、ぜんざい、夏はところ天、わらび餅と色々あり、出来上がった物をお持ちし、笑顔で「美味しい」と言われると私も嬉しい気持ちになります。

ここでお手伝いをしていると両親を思い出します。父は 91 才、母は 90 才になり、元気とは言えませんが、何とか生活しております。父は、若い頃は血気盛んで特攻隊には年齢が足らず、予科練に入り、まもなく終戦で捕虜となり運良く帰ることが出来ました。その後公務員となり、30 代半ばで自営業を始め、今年の 5 月まで仕事をしていましたが、急に体力が衰え要介護 3 になり、母と妹家族の老々介護生活になりました。
母は、祖父の仕事の関係で中国（上海）生まれです。小学校途中で家族 5 人日本に引き揚げて来ました。学生時代は、あだ名がシャンハイと言われ、嫌な思い出があると聞かされました。

親はいつまでも元気で生きているんだと思っていましたが、現実は違います！

年は、確実にやって来ます。いつまでも元気なはずがありませんが、私もあと 10 年 20 年と長生き出来るか分かりませんが、これからの生活を大切にし、楽しかった事、嬉しかった事、父、母の事を子、孫達に時折り話すように心がけて行こうと思うこの頃です。

★　挿絵の代わりに：
緑鯱城会「みどりの広場」2017 年 10 月 1 日に掲載の「かきつばたの里」秋まつりに参加されたボランティアの活動を次に転載します。

☆　緑鯱城会は、たこ焼きコーナーのお手伝いです。
出来上がったたこ焼きにソースを塗り、青のりをかけパック詰めするのが仕事です。
お年寄り向けにタコも小さく切ったたこ焼きは、入所者さんやご家族の方にも喜んで頂きました。

緑市民病院ボランティア

岸野　美枝子　　（29 期　健康 A）

緑市民病院では、毎週水曜日に午前 8 時 45 分から 10 時 30 分までの間、2 名で受付サポートボランティアを行っています。

来院される初診の方は窓口へ案内し、再来の方は再来受付機で受付をします。大半の方はスムーズに使用されていますが、たまに使い方が分からない人は、お尋ねになります。戸惑っていられる方には、お声掛けしてサポートします。

車椅子で来院された方が「〇〇科で受診したいので連れていって下さい」と言われた時は車椅子を押していく事もあります。

帰られる方が「タクシーを呼んでほしい」と言われれば、電話の掛け方を教えたり、直接タクシー会社へ電話を掛けたり、等々・・・。

これからも来院される方々に「笑顔で挨拶」を心掛けてサポートしていきたいと思っています。

緑市民病院から感謝状

2017 年 10 月 10 日に緑鯱城会「みどりの広場」に掲示された事を、次に紹介します。

10 月 10 日医療法人純正会名古屋市立緑市民病院から感謝状を頂きました。

緑市民病院が医療法人純正会になって 5 年緑鯱城会が病院受付サポートを行ってきた事に対する感謝状です。その前から絶えることなく先輩が続けて頂いた結果として今日があります。これからも続けて行く為にも沢山の方の参加をお願いしたいと思います。

緑市民病院受付サポートは毎週水曜日　8:45～10:30 です。どうぞよろしくお願い致します。

このニュースは 10 月 28 日の「緑区ホームサービス」に掲載されました。

科学館ボランティアをして

水谷　敏夫　（29 期　文化 B）

ボランティアは今年で 4 年目になります。色々な事が有りこの年齢になってもなるほどという事が多く有ります。
なかでも、これは気をつけなければいけないと思った事が有りました。それは館内で子供連れの方(特に比較的若い奥様連れ)が来店され、一通り見学して一休みになる訳ですが、子供はまだまだ色々見たいのです。6 歳前後の 4 人、館内を走り廻っていますので、私達ボランティアは走らないよう注意しますが、目の届かない所に行き同じ事をくり返します。

奥様達は休憩場所でガールズ・トークに夢中，子供達をほったらかしです。館内といえども安全では有りません。子供から絶対に目を離さないように。

ちなみに、外国人の子供連れの方は子供から離れて休息している事は、絶対に無いですね。必ず一緒に行動して展示物で遊び説明しています。見習いたいものです。

もうひとつ。展示物は 3 歳ぐらいから大人まで楽しんで頂けるよう工夫を凝らしたものが有ります。それは、名古屋市のジオラマです。上空から見るビル、車、電車等小さくかわいいものです。
幼児にはたまらないものです。しばし見入り頭の上に手摺が有るのをすっかり忘れ立ち上がった時「ゴーン！」と音がし、頭を抱えて泣きそうな息子さん、しかし父親は「注意が足りない」と一括。立派な親だなと思いました。後日、そのコーナーで見ましたら手摺の下にスポンジが貼って有り、安全になっていました。

一回のボランティア時間は 2 時間 30 分で歩きっぱなし、かなり疲れますが、楽しいこともたくさん有りやめられません。

磯部勝さん提供の写真

素描：アメリカのボランティア活動

平田　秀　（30期　文化A）

30年に近いアメリカの生活から帰国して3年になります。帰国してすぐさま鯱城学園に入り、いろいろな友達も出来て毎日楽しく過ごせることを感謝しています。

30年前、私達家族を含めて5家族が、ノースカロライナ州の1万人ほどの小さな町に住むことになりました。新しく工場を設立するためです。私達家族は、長女（高校1年）と長男（小学5年）を伴っての赴任でした。正直、子供たちにとって非常に微妙な時期でもありましたし、現地での英語力不足と、日本の教育レベルの維持という観点から帯同するかどうか悩んだ末での決断でした。　ところが、いざ住んでみますと、ワイフをはじめ、子供たち一人一人に、英語の先生が付き添ってくれて、少なくとも週3回の、個別に英語の読み書き、そして会話の勉強が始まったのです。それは、6か月も続いたでしょうか。

学校にも日本語を話せる先生が採用されていました。あとから分かったのですが、町の経済局が、町民全体に日本人の生活への慣れと語学力の向上を援助するボランティアを募集して、その方たちをいろいろな局面に合わせてきめ細かく担当させてくれたのです。すべて高齢者の方でその経験を教えていただきました。もちろん、ノーフィーで、休憩に日本茶をサーブする程度でした。私たちは、町にとって最初の日本人でありました。ガソリンスタンドの人たちも「こんにちは」「ありがとう」などの日本語を習っていてくれて、私たちに、できるだけ早くこの町に溶け込んでほしいような心遣いが感じられ、住みやすい町だなと感じたことでした。

このような原体験がありましたので、最初からボランティア活動には、興味がありました。と言いましても、ボランティア活動には、いろいろな形があります。アメリカは寄付文化ともいわれています。寄付行為は本当に活発です。それは、開拓時代から伝統的に相互扶助的なコミュニティ活動が根付いてること、キリスト教の教えの影響と制度的には税制優遇が背景にあります。実際、年収の如何にかかわらず、10%程度は、寄付に当てるということです。教会、協会、大学、ボランティア支援団体など自分の希望する団体に希望する使い道を示して寄付をするのです。そしてその管理団体もしっかりしていて安心できるのです。一時、「フィランソロピー」という企業文化活動が流行しました。この活動の中心は、寄付行為であったので、リーマンショック以降グダグダになり、今はどのような形になっているのでしょうか。もともと、個人の自主活動が、企業主導でというところに無理があったようにも思われます。

ここからは、お金を出すことより、個人の時間と汗を供出するボランティア活動を2,3のケースでご紹介します。

私たちの住んでいたノースカロライナ州のハイウエイ、一般道路を走っていると、道路わきに、よその州ではあまり見かけない標識が立っている。それには、例えば「ADOPTA HIGHWAY――IDELL COUNTY―― LIONS CLUB」という文字が緑色のプレートに2段で書かれている。下の段が、アダプトした団体、グループ、例えば、ライオンズクラブ、学校、企業、医者など、里親の名前でいろいろな表記がされている。

アダプトとは養子にするという意味です。だから道路と養子縁組して面倒を見るという仕組みである。州が運営するどんな道路でも、2 マイルを対象にアダプトすると年 4 回はその区間のごみを回収して、回収物のうちできるものはリサイクルするというのが趣旨である。要は、汗を流すということです。

州運輸省が奉仕者に安全用の作業着を貸与する。この人たちをよく見ると、学生から老人までいろいろな年齢層の人が作業している。実にはつらつとしていてカッコよかった。期限は 1 年で、毎年更新するオプションが与えられる。実は、私たちが住んでいた地域の日本人会がこのプログラムに応募しましたが、空いている区間はなく、長いウエイティングリストに載せられたままだった。ほかの州はどんな様子か知らないが、このプログラムは、ノースカロライナ州が全米で最大規模と聞いています。

また、「ハビタート：フォァ：ヒューマニティ」(Habitat for Humanity) という活動がある。家を持つ経済的余裕のない人々のためにボランティアが時間と労力を提供してそこに住むことになる人と一緒になって家を建てるプラグラムだ。貧しい人のために寄付を募るのではなく、ボランティアの人が、ともに汗を流すことがこのプログラムの趣旨である。もちろん、このように家を建てた人は、少しずつ購入に要した費用を返済し、次の人につなげていく。キリスト教精神に基づいてはじめられた運動で、政府の援助を受けず、それぞれの地域で独自で運営されている。因みに、私は、このストア（店も出している）が好きで、日曜大工の材料を買ってきたものだ。自分で家のメンテをする。やってみると楽しいものだ。

このほか、「スープ：キッチン」というプログラムもある。学校や教会の一角に箱が置いてあって、スープなどの缶詰を入れておくと、ホームレスの人を対象に、運営されているシェルター（施設）で食事として提供される仕組みだ。ある教会では、週に何回か、朝、実際にスープを作るところもあり、これには、日本人の奥さん方も参加されていた。アメリカでは、全人口の 20%がボランティア活動に参加しているというデータがある。子供を育てる過程で、社会活動に接する機会の多い女性が参加率の高いのは、日本と同じだ。学歴的にも、高学歴者のほうが、また、年収で見ても、高収入者のほうが、ボランティア活動にかかわる割合が高いというデータもある。

日本は、高齢者社会であり、65 歳以上は、全人口の 25%を占める。この中から、もっと自分の自由時間を社会奉仕活動に使って社会と繋がってみようかなと思う人が増えれば、アメリカの 20%の参加率だけでも追いつく。少し暴言と思うが、それくらいの意識改革があっても良いと思う。それには、ボランティア活動への理解を求める啓蒙活動、社会的な土壌の醸成、十分な受入れ体制の整備が望まれる。

先に書いた「アダプト：プラグラム」など日本でも展開できる活動もある。例えば、「大高緑地」などアダプトしてみてはどうか。今は、花菖蒲などの花壇にススキが一杯で、花菖蒲がかわいそうだ。行政の問題もあるので、そうは簡単ではないかもしれないが。

特 別 寄 稿

あの世とこの世の狭間で

馬越　求　（19 期　福祉）

寒い日の続いた昨年暮れの 12 月、親しく付き合っていた友達二人が相次いでこの世を去った．一人は中学時代からの親友で医者。もう一人は妹の連れ合い。
共に 80 歳を少し過ぎたばかりだった。今、私の感じる 80 歳の壁は、厳しく高い。
既に、幾人かの親しい人々を見送って、年々、見慣れた顔が少なくなってきた。80 歳前後は正に適齢期。いつ何時この身に異変があったとしても不思議ではない。たとえ 80 歳の壁を何とか越えたとしても、ふと辺りを見渡せば、何時しか、竜宮帰りの浦島太郎さながらに「みんな知らない人ばかり」となっているかも知れない。できれば、このような事態だけは免れたいとの思いから、日々心掛けているのが、鯱城会のお付き合いのほか、グランドゴルフ、早朝の散歩とラジオ体操、家庭菜園、詩吟などを通じて心身劣化の減速に努め、新しい友人・知人を補充していくことである。

この世に対してあの世といわれるが、果たしてあの世があるのか無いのか、どのよなところなのかは誰も知らない。遅かれ早かれ誰もがゆくところであるとしも、そのような不案内なところへは何も急いでゆく必要はあるまい。

歳をとるにつれて、年々歳々、自分の現在の居場所がこの世なのかあの世なのか、しかと判別し難いような感覚におそわれる時もある。これは、あの世へゆくための準備として受け入れよう。認知症だとかボケの始まりだという人がいるかも知れないが、高齢者のそれは決して病気ではない。天の恵みであり、自然の摂理である。かつて、誰一人として帰ってきた者はいないから、あの世は、さぞかし想像以上に良いところなのであろう。

あの世とこの世の狭間で、慌てず騒がず天命のままに、今しばらくの間、我が人生の最終楽章をひとり静かに楽しみたい。
（平成 29 年 8 月）

アフリカ紀行

鳥山　努　（23 期　園芸）

皆さん「ザンビア」「ジンバブエ」「ボツワナ」と言う国々が何処あるかご存知ですか？広大なアフリカを 5 つの地域に分け最も南に位置する地域が「南部アフリカ」で、その最南端が「南アフリカ」と言う国で、その北に隣接する国々です。

アフリカには大小合わせて 57 ヶ国（世界は 169 ヶ国）も有り、貧しく治安の悪い国も多々有ります。従って我々には馴染みが薄く観光も絞られます。
7 年前に旅した「エジプト」はその当時安全でしたが、その後政治不安になり、現在は多少回復したと言うものの多くの旅行会社は企画に慎重です。

そんな中上記 3 ヶ国は安全だと言う事で「南部アフリカ」のツアーに参加しました。

今回の旅行の目的『ビクトリアの滝（ザンビア・ジンバブエの国境)』は世界三大瀑布の一つです。「ナイアガラの滝（カナダ・アメリカの国境)」と「イグアスの滝（アルゼンチン・ブラジルの国境)」は、既に訪れており残りの一つです。これらの滝は何れも太古の時代、地殻変動により大河に大規模な断層が生じた地形です。この『ビクトリアの滝』は、蛇行した入り組んだ地形で、延長幅 1,700m 最高落差約 100m でその対岸には遊歩道が有り、桁外れな水量による水煙が虹を創り出し轟音（ごうおん）を伴った滝は、圧倒的で言葉には言い表せません。ヘリコプターによる上空からの遊覧飛行も圧巻でした。　夕食でバーベキューが有り、変わった食材の中に日本では無い珍味「蛾の幼虫(黒い)」があり意を決し、目を閉じて口に放り込む。

引き続き訪れたのは隣国ボツワナ(世界最大のダイアモンド生産国で豊かな国)の『チョベ国立公園』は野生動物保護区で有名。広大な森の中をサファリドライブ(四駆)、大河の岸辺はボートサファリで、至る所で食事をしたり水浴びをする象の親子・キリン・シマウマ・バファロー・ワニ・カバ等々の生活圏内を身近に見て回り迫力ある貴重な体験ができました。

上記三ヵ国を行き来する為、その都度出入国の手続きが必要で、役人の要領の悪さも有り、時間がかかることもしばしば。

最後はアフリカの最南端に位置する南アフリカの『ケープタウン』のテーブルマウンテンから喜望峰を眺め、南極からの風を感じ、また遠い「日本の地」を想いながら･･･。

トヨタ博物館の見学

辻　正子　（23期　文化A）

7月21日、緑鯱城会23期生有志一同11名、トヨタ博物館を見学。
設備の良さは勿論のこと、受付ガイド嬢の対応のよさ、「流石トヨタ」と感心!

全館で世界の車160台が展示、ガイド嬢のゆき届いた説明、豪華できれいに保存された各国の車種に一同感嘆。

新館本館合わせて1時間半のガイド。自動車の誕生から現代に至るまでの日米欧の自動車の進展、互いの関係、歴史を学ぶことができました。
また、当館では様々な関連活動をすすめ、年二回の、「クラッシックカーフェステバル」他、収蔵車の走行披露も開催して、多くの皆様に楽しんでいただき乍ら、豊な自動車文化を育んでゆけたらと、願っているそうです。

お昼は博物館内のレストランで食事をして、和やかな交流のたのしい一日をすごして参りました。

私ごとですが、博物館で、古い写真でみた義父愛用車に似た車を見つけ、撮影してきましたが、プレートがよく読めず、博物館に手紙を送り問い合わせましたらすぐ、多くの資料をお送り下さいました。それによれば、車のメーカーは東京自動車製造(株)、車は1935年から5年間のみ130台生産の「筑波号」とわかりました。
亡夫が小学一年生の頃、ドライブを楽しんだとの話にも納得、お蔭さまで永年疑問に思っておりました車のことがわかり、博物館を見学できたこと、実り多い一日となりました。

「一見の価値あり」まだ訪れてない方、ぜひ、お出かけ下さいませ。

ありがとうございました。

名古屋朝顔まつり

開花コンテスト優秀賞を受賞

加藤　政春　（24 期　園芸）

第 28 回名古屋朝顔まつりは、7 月 26 日～30 日まで名城公園フラワープラザにて開催されました。

私はこれまで園芸学科を卒業してからも、先輩や同期の人達と朝顔づくりをしてきました。

今回コンテストに出品して優秀賞を受賞することができました。

朝顔づくりをしていても、毎回タイミング良くコンテストの日に花を咲かせることは天候にも左右されていつも思うようにはいきません。

家庭でも野菜を育てる作業などと同じだと思います。

5 月 20 日ごろ種を蒔いて 7 月 20 日ごろから花が咲きだすまで、水やり、肥料やり摘芯,病虫害予防と毎日世話をして育てます。

雨の降る梅雨の時、梅雨が明けての蒸し暑い時期、蚊に刺されて汗をいっぱいかきながらの日もあります。

7 月 20 日ごろの朝顔が咲き始めるころ、夕方には蕾が膨らんで翌朝 15 センチほどの大きな花が咲きます。色の違いや様々な模様の朝顔が咲きます

朝顔を育てても花が咲くのは５０％ほどです。摘芯がまだまだ未熟な為だと思います。

今回の受賞は、私にとってこれまでの朝顔を育ててきた努力が評価された結果だと大変嬉しく思っています。

2017 年 8 月 9 日

覚王山界隈散策

馬場　良祐（29 期　生活 A）

秋とは名ばかりの残暑厳しい中を仲間と覚王山界隈を散策に出かけました。地下鉄覚王山駅下車、エレベーターで地上に出るとすぐ西に日泰寺参道にでる。

最初に向かったのは、もう一筋西の「四観音道」です。
徳川家康が名古屋城築城に際し、城から鬼門の方角の北北西に甚目寺観音・東北東に龍泉寺観音・南南東に笠寺観音・西南西に荒子観音の四寺を鎮護として定めた。
江戸中期から名古屋城を囲む尾張四観音を巡拝する風習があり、これらの寺に通じる道を、四観音道と呼んだ。このうち笠寺と龍泉寺を結ぶ道の一部が千種区内に残っており、その名残を楽しむことができる。（立て看板があります）

道中には明治時代に建てられたと伝えられている道標が民家の塀沿いに残っていた。
「東　やごと　ひらばり・西　なごや　かち川・南　あつた　かさでら・北　せと　りゅうせんじ」と石柱に刻まれている。

次に向かったのは日泰寺の西門を出て北へ約 200m。狭い山道をやや下った所にある「鉈薬師（なたやくし）」寛永 9 年（1669 年）に明国帰化人の張振甫が上野村陽光院にあった薬師堂を、尾張藩二代藩主徳川光友の援助を得て現在地に移した（医王堂とも言われる）本尊薬師如来像の他、鉈彫りで有名な円空作と伝えられる日光菩薩・月光菩薩、守護神の十二神将の像が安置されている。（毎月 21 日の 10 時～14 時に限り開扉され、堂内を拝観することができる）
近くには張振甫一族の墓所がありますがご子孫の「振甫さん」の敷地内なので立ち入ることはできません。
すぐ近くの敷地に「水戸黄門」でおなじみの御老公の杖に使われている「亀甲竹」を発見、初めて見る竹に感激！

昼近くになり、平成 18 年に国の登録文化財に登録された料亭「松楓閣」にて料理を堪能。食後には閣内を案内してもらい見学、昭和 9 年（1934）覚王山日泰寺山門町の 1100 坪の敷地に料亭「泉竹」が開業、端正な数寄屋造りや丹精された庭園が趣深い。現在の松楓閣がこれを継承している。
その後、日泰寺参拝、揚輝荘南園喫茶室にてコーヒーで一服し、帰路に就く。

楽しいウォーキング

阪野　敏子　（28 期　国際）

健康とダイエットのために、早朝にウォーキングを始めて 20 年近くになります。最初は、自宅近くの新海池公園の内外を数回周ることから始めて今は、新海池公園から成海神社、千句塚公園そして新海池公園へ戻る 4 キロ余のコースを歩いています。雨の日や外出する日は、休みますし、その日の予定に合わせて、コースを短縮します。公園や住宅街の小道は人や車もまばらで、四季折々に姿を変えて心身をリフレッシュさせてくれます。

これからの季節、東の空が白み始めるのを確かめて、身支度を整えて歩き出します。マスクをして小声で所属しているコーラスの練習曲を暗譜しながら歩きます。

新海池公園では、かもを始め多くの鳥たちを目にします。カワセミや小ゲラに出合った時は、本当に興奮しました。又、飼い主さんと散歩中の犬たちとのふれ合いも楽しいものです。彼らは、人なつこくってしっぽをふって身体を寄せてきます。いわゆる、猫派だった私が犬派に変わったのは、以外に大きなでき事でした。

いつもお世話になっている？新海池公園には、月一回の清掃ボランティアで、ささやかなお返しをしています。

背筋を伸ばして、歩幅を広くして早足で歩く。周りの自然を楽しみながら、時々人や犬と会話する。これが私の元気の源です。

ある公園の秋景色

楽しめた彦根城等バスツアー

加藤　比敏　（29期　福祉A）

今回ツアーは素晴らしい晴天に恵まれ38名の参加者を得て楽しいものとなりました。予定通りに出発し養老サービスエリアで途中休憩の後、用意してくれていた「年金時代」「ボケない小唄」の替え歌などを、カラオケ付で歌いながら気分を和ませ一路「彦根城」へと向かう。

彦根城入口前では「ゆるキャラ」の「ひこにゃん」が博物館縁側に登場する時刻で「ひこにゃん」のほほえましい仕草を見てから、国宝彦根城へと坂道を登る。登城坂道・お城の階段を登るのが厳しい人は、右手の下屋敷跡に作庭された池泉回遊式庭園の「玄宮楽々園」の散策へと行きました。

彦根城登場者のうち数名は途中の大手門手前の茶屋で待つこと（休憩）とし、大部分の方は天守まで登り360度見渡し、湖面の輝く琵琶湖や城下の景色を堪能する。

彦根城は姫路城、松本城、犬山城等と共に五大「国宝の木造天守」として有名な城で中でも彦根城は唐破風の屋根がある独特の造りで趣のある城です。

昼食は城下に整備された「夢京橋スクエア」で「近江牛のうどんすき」が出され柔らかく美味しい近江牛を味わい、整備されたスクエアを散策。

その後、キリンビール彦根工場を見学し、出来たての生ビールを試飲し、ほろ酔い気分が少し残ったまま龍潭寺へと向かいました。

「枯山水の庭園」は、観音様の立ち姿の石を中心に大海（白砂）、水平線（杉垣）、雲（生垣）を背景に緑に囲まれた石庭でした。

龍潭寺は石田三成が城主であったことでも有名で佐和山を借景とした「蓬莱池泉庭」は鶴亀を模した槙木と岩島があり「玲龍の池」とも呼ばれ、落ち着いた雰囲気の寺でした。

帰りのバスの車内では「ビンゴゲーム」で盛り上がり、全員が景品を受け楽しい一日を過ごし無事に帰宅することができました。

気軽に参加できるウォーキング同好会
参加は自由です。

募集中!

＊ふれあい又は配達時に案内を入れます。＊

◎ 最近の活動

○ 9 月 30 日 (土)【相生山緑地＆オアシスの森】 参加者 12 名

9:30 地下鉄鳴子北駅発⇒相生山神社⇒オアシスの森（竹林の小径・見晴らしの丘）⇒葉書塔⇒徳林時⇒［鈴のれん］にてランチ後解散 13:00

○ 10 月 30 日(月)秋の大高歴史散策コース　参加者 16 名

9:30 大高緑地恐竜公園⇒「桶狭間の戦い」の戦跡(丸根砦跡) ⇒草薙の剣の(氷上姉子神社)、⇒大高城⇒(大高三蔵元の一つ[山盛酒造]で銘酒試飲)⇒(和食のふくしま) にてランチ⇒鷲津砦跡⇒大高緑地恐竜公園…スタート地点で解散 14:20

◇　今回は 27 期蟹江喜代子さんの案内で散策ウォーキングしました。

◎ 今後の予定日　年 6 回

平成 30 年 3/30㈮、4/30㈪、5/30㈬、9/30㈰、10/30㈫、11/30㈮

○ 東山公園一万歩お花見ウォーキング＆植田山とランチ(レベル1)

＊ 3 月 30 日　金曜日地下鉄東山公園 3 番出口地上　9 時 30 分 集合です。

○ 4/30(月)、5/30（水）に付いては 3 月に配布予定の

ふれあいに入れます。

＊ 持ち物　飲み物、雨具、動きやすい服装・帽子・歩きやすい靴・ストック

＊ 参加は自由です。 参加される人は　集合場所に 9 時半迄に来て下さい。

雨天中止 前日の午後 6 時 52 分NHK天気予報で
降水確率が 9 時～12 時 50%以上は中止

連絡先　加藤勝江　090-3564-7523

表紙「甲冑」についてのコメント

緑鯱城会の皆様作品展の開催おめでとうございます。
私は貴会の要請により毎回出品させて頂いている「鳴海甲冑同好会」です。
当会は鳴海商工会の組織の一員で約20年前から活動し、設立10年間は商工会主催の甲冑製作教室を開催し、百余名の方々の指導をして参りました。
その後は各地の要請を受け指導に出向いています。
5年前に愛知県内の甲冑製作同好会の有志10団体が集まり「愛知戦国甲冑隊」を組織いたしました。
今回作品展をご覧になり、甲冑に興味を持たれましたら製作指導をいたします。
端午の節句にお孫さん用の着用兜（実際に着用出来ます）、大人用にはご自身で着用し各種イベントにも参加できます。

鳴海甲冑同好会　世話人　近藤　武
電話　052－891－8793

沢山実ったりんご

編集後記

”ふれあい„７０号を無事発刊し、皆様にお届ける事が出来ました。ひとえに、会員の皆様のご協力のお蔭と感謝申し上げます。
今回も、作品展や、ボランティア、区会活動等を掲載させていただきました。
引き続き広報誌へのご支援、ご寄稿、ご意見をお願い致します。
これから、益々寒さが厳しくなってまいります。どうぞ、風邪などひかれませんよう、お身体をご自愛ください。

広報委員一同